

蕙齋と秋圃(比較年譜)

<p>鍛形蕙齋</p> <p>本姓田中(駿河の人)。那須の農家(後江戸へ出、豊屋を営む)赤羽氏の養子となる。幼名三治郎。</p> <p>画名北尾政美【まさよし】、杉臯【さんこう】。蕙齋、後、鍛形と改姓。紹眞【つぐさね】と号す。</p>	<p>斎藤秋圃</p> <p>初め池上氏。又葵氏。後、斎藤氏。幼名市太郎。名は衛、諱は相行、韋行。通称亦介。初め足齋、双鳩、一阿弥と号し、後、秋圃、土筆翁、茗圃。</p>
--	--

1764	蕙齋1歳		明和元年 誕生
1768		秋圃1歳	明和五年 誕生 ※京都人(伝) 加賀人(馬琴)の二説あり 明和六年生誕説もあり(伝)
◆		秋圃?歳	若年時円山応挙の門に入る(伝)。
◆	蕙齋?歳		安永初年 浮世絵師北尾重政に入門。兄弟子に京伝政演。
1778	蕙齋15歳		安永七年 黄表紙風嘶本「小鍋立」「はなし」に画く。「北尾重政門人三治郎十五才画」と署名。
1780頃~	蕙齋17歳頃~		安永九年頃から寛政六年迄に黄表紙など三百部ほどの挿絵を画く。
1785	蕙齋22歳		天明五年八月 「江都名所図会」刊。(「北尾蕙齋政美」と署名)
1790	蕙齋27歳		寛政二年 「来禽図彙」一帖刊。
1794	蕙齋31歳		寛政六年五月廿六日 津山藩松平越後守御抱え絵師となる。(大役人格御絵師・十人扶持)
1795		秋圃27歳	寛政七年 応挙没。以後森狙仙に師事(伝)。 ※画道修行の為長崎へ向い、宮島に三年、福岡に三ヶ月滞留。唐津や有田にも仮寓(伝)。
1796	蕙齋33歳		寛政八年 黄表紙等の画業を廃す。
1797	蕙齋34歳		寛政九年 鍛形氏に改姓。狩野養川院門人となる。
1802		秋圃35歳	享和二年秋 大坂新町 吳雀楼にて馬琴に逢う。太鼓持ち亦介と称し、足齋・衛と号す。(「羈旅漫録」) ※此の年長崎着。江稼圃に師事せんとして果さず(伝)。
1803		秋圃36歳	享和三年 大坂田宮仲宣著「東牖子【とうゆうし】」に挿絵「筒井筒」図を又輔の号で画く。同年六月 大坂「葵氏艶譜」刊。双鳩法師と号する。 ※此の年長崎にて黒田長舒公に見出される(伝)。
1805	蕙齋42歳		文化二年頃 松平定信の命により「近世職人尽絵詞」三巻を製作。南畝・喜三二・京伝が詞書を作る。
		秋圃38歳	文化二年六月 大坂「つはものつくし」刊。(序に「つくしの国なる秋圃が筆の・・・」) 文化二年七月 秋月藩御抱絵師となる。(三人扶持十二石)
1807		秋圃40歳	文化四年二月廿四日と廿六日 江戸にて馬琴を訪う。「黒田甲斐守様御内 葵衛殿 大坂新町 吳雀楼にての知る人、その頃は亦介といひし也」(「訪問往来人名簿」) 同年「御膳番」となる。同じ頃、大坂「わすれくさ」四冊刊。山笠、鶯替え、松囃、ペーろむ、不知火等九州に因む絵を画く。(筑前秋月藩中 葵氏)
1809	蕙齋46歳		文化六年 津山藩に「江戸一目図屏風」を製作。
1811		秋圃44歳	文化八年 秋月政変(織部崩れ)
1812	蕙齋48歳		文化八年十二月 小従人組入り、士分となる。
1813		秋圃46歳	文化十年七月 斎藤と改姓。「御馬廻頭支配表御番方」となる。
1815		秋圃48歳	文化十二年六月 「葵氏艶譜」補刻本刊。ちぬ翁序に「葵氏は花洛の人、初 足齋、又 双鳩と号す。後築石に下りて何某の君の籠を得て奉仕す。秋圃とあらたむ」 同年、警固神社に「猪早太鶴退治図」絵馬を奉る。
1820	蕙齋57歳		文政三年 今井伊助二男万吉(廿一才)を養子とする。
1824	蕙齋61歳		文政七年三月廿二日没。浅草密蔵院に葬る。法名「彩淡蕙齋居士」。
1826		秋圃61歳	文政十一年四月 隠居。長男 璘太郎四人扶持十二石相続。
1838		秋圃73歳	天保九年四月 璘太郎出奔により家名断絶。町絵師となる。
1859		秋圃92歳	安政六年十月十六日没。太宰府光明寺に葬る。